

次号予告

特集 評価

身障における評価の考え方……………熊本リハビリ学院 古川 昭 人
精神科における作業療法評価の考え方

……………金沢大学医療技術短大 関 昌家・他
立ち直り反応・平衡反応テストの知識と実際

……………南大阪療養所 今川 忠 男
失語症の評価 (PT・OT に必要な知識と実際)

……………有馬温泉病院 熊倉 勇 美
上肢 ROM テストの試案とその作成経緯

……………神戸大学医療技術短大 嶋田 智 明
とびら チームアプローチ確立のために……………東北大・鳴子分院 中村 隆 一

講座 老人 6. 老人と家族病理 ……日本老年社会科学学会会員 吉沢 勲
障害児と母子関係 2. 障害児における母子関係

……………筑波大学 藤田 和 弘
プログレス 訪問看護と地域リハビリテーションの動向

……………東京神経科学研究所 木下 安 子
リハビリテーション・インフォメーション

<日本臨床心理学会>……………学 会 事 務 局

<日本特殊教育学会>……………筑波大学 瀬尾 政 雄

あんてな 身障スポーツ (最近の動向)……………兵庫リハビリセンター 増田 和茂・他
資 料 第17回理学療法士・作業療法士国家試験一模範解答 (Ⅲ)

編集後記

うっとうしい梅雨も晴れ上がり夏本番、読者の皆様も猛暑の中で本誌に目を通してのことと思います。

さて今月号の特集は、整形外科領域から「手の外科」をとりあげました。Hand Therapy という言葉に代表されるように、奥行の深い一つの独立した治療分野として体系化しつつあります。今回は、この道で御活躍の、藤原朗・畑野栄治・生田宗博・矢崎潔・椎名喜美子各先生にそれぞれ御専門の、「手の機能再建術(腱移行術について)」・「手の外科の理学療法」・「手・指再接着術後早期からの作業療法」・「手の外科における作業療法」・「米国 Hand Therapy の現状(訪問記と日本における展望)」についてペンをふるって戴きました。

リハビリテーションインフォメーションでは、リハビリテーション関係、諸団体を順に紹介しています。資料として「理学療法士・作業療法士国家試験問題一模範解答」の理学療法の後半部分を紙面をさいて

掲載しました。

とびらにも書かれているように最近「援助」と言う言葉がひんぱんに使われ出したことに好感をもって受けとめている読者も少なくないと察します。リハビリテーションのサービス過程で我々治療者が主役で“してあげる”側から、患者と共に“協力援助”する側に姿勢を移しつつあることは、これまでのあり方から一歩進んだものとして受け取っています。

読者諸兄から、本誌教育関係の特集に反響が強く、中でも「臨床教育問題」については、高い関心をよせられたことは、執筆企画された方々はもとより、現場では治療のみならず、後輩の教育に熱意をもって日々臨まれている証左であり、明日の PT・OT を想う時、心強いものがあります。学会も終りホッと一息の所ですが、若手の発表も含め参考になることの多い内容でした。是非成文化して投稿して下さい。

(大喜多 潤)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五味 重 春
埼玉県障害者リハビリセンター 所長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院院长
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
リハビリテーションペ
イン(痛み)クリニッ
クわらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 紹 子
加納岩総合病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己

池 田 俊 雄

伊 東 元 夫

宇都宮 初 幸

大 丸 翼 子

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

木 村 信 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 智 明

嶋 田 明 子

鈴 木 昌 家

関 橋 正 明

高 橋 久 隆

中 屋 隆 子

橋 元 隆 子

藤 沢 しげ子

矢 下 令 子

山 谷 隆 昭

(担当 細田・西塚)